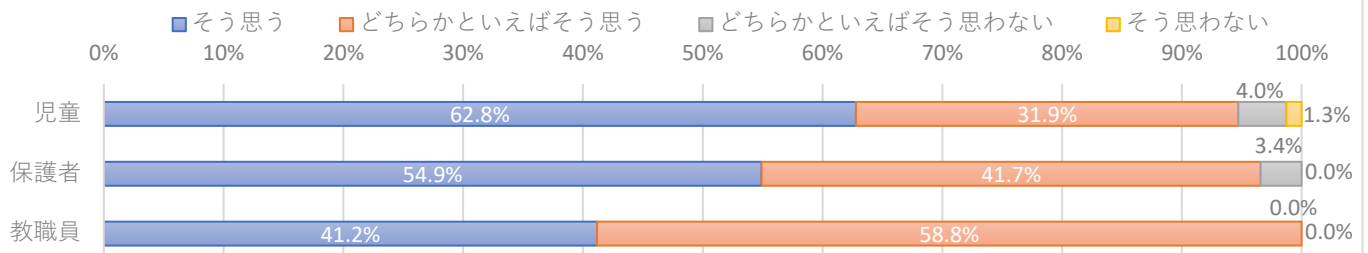


令和5年度 住吉小学校 報告会資料

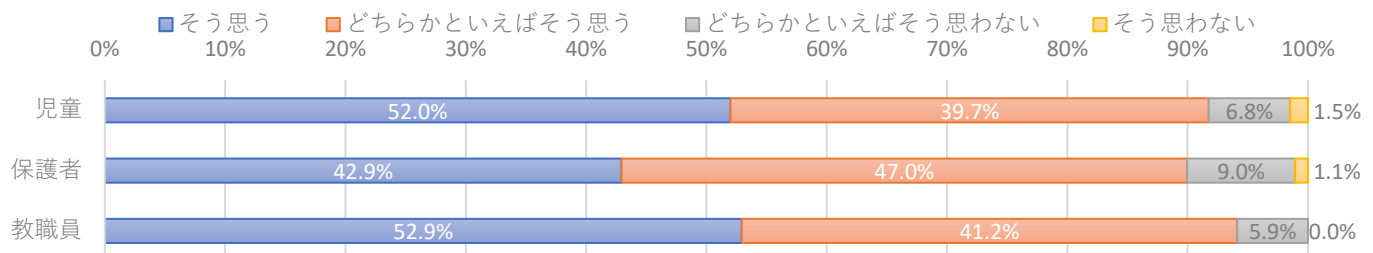
1の柱「確かな力を育む」

1. 授業の内容はわかりますか。



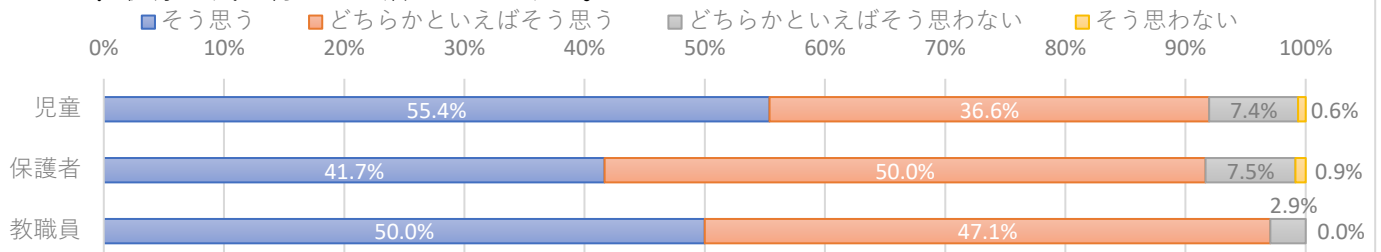
約94%の児童が学習を理解していると回答しており、引き続き高い数値を示している。国語科の研究3年目となり、話す・聴く力を育む「はなすきタイム」や国語科の授業で培った伝え合う力が他教科等や日常生活でも発揮される場面が顕著に見られるようになった。担任間の交換授業や専科の授業等を取り入れ、複数の教員で児童の指導にあたり、個々の児童に応じた支援も継続してきた。また、GIGA端末を活用してドリルパーク等に繰り返し取り組むことで、基礎基本の定着を図る事ができた。今後も、GIGA端末を効果的に活用し、学び合う、関わり合う等協働的な学びを大切にしながら、児童一人一人が分かる授業づくりに努めていきたい。

2. 進んで学習に取り組んでいますか。



約93%の児童が意欲的に取り組んでいると回答している。国語科の校内授業研究の充実に伴い、相手意識や目的意識をもち、「なぜだろう」「知りたい」と児童の疑問、思いや願いから「問い」を生み、その「問い」を個で考えるだけでなく、協働しながら解決していく学習を構想して取り組んできた。また、地域の人・もの・ことと連携を図り、探究に努めてきた。そのようなプロセスの繰り返しを通して児童の主体性が育まれてきたと考える。また、GIGA端末の操作にも慣れ親しみ、課題に対する調べ学習や考えの共有、まとめとしてのプレゼンテーションにおいては、GIGA端末を効果的に活用できるようになってきた。これからも、地域の教育資源を生かすことで資質・能力を豊かなものとして伸ばしていきたい。

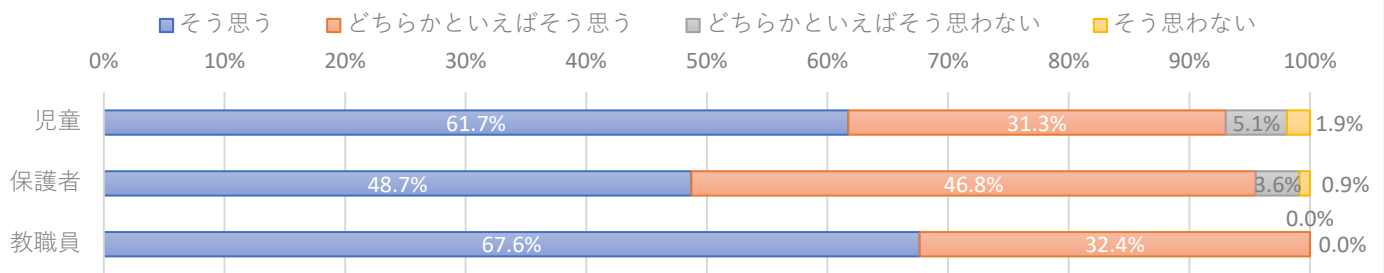
3. 健康に気を付けて生活していますか。



毎月の生活のめあてへの取組や家庭科や体育（保健）、学級活動を中心とする様々な授業において、栄養教諭や養護教諭との連携を図った授業を系統的かつ計画的に取り組んできた。専門性のある教員からの指導により、児童の必要感や問題意識を引き出し、実践しようとする態度につながり、幅広い視野に立って学ぶことで健康についての理解を深めることができた。また、キラキラタイムでは、楽しみながら児童の体力向上を図るために、縄跳びやボール遊び、鬼ごっこ、5分間マラソンを実施している。今後も、キラキラタイムで日常的に基礎体力を養いながら、栄養教諭、養護教諭と連携を図って系統的な指導を積み上げていきたい。

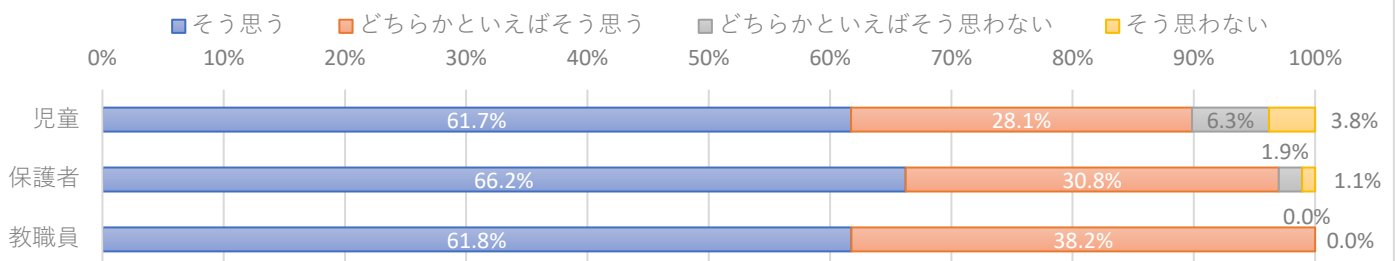
2の柱「豊かな心を育む」

4. 学習や生活で困ったときには学校の先生は相談にのってくれると思いますか。



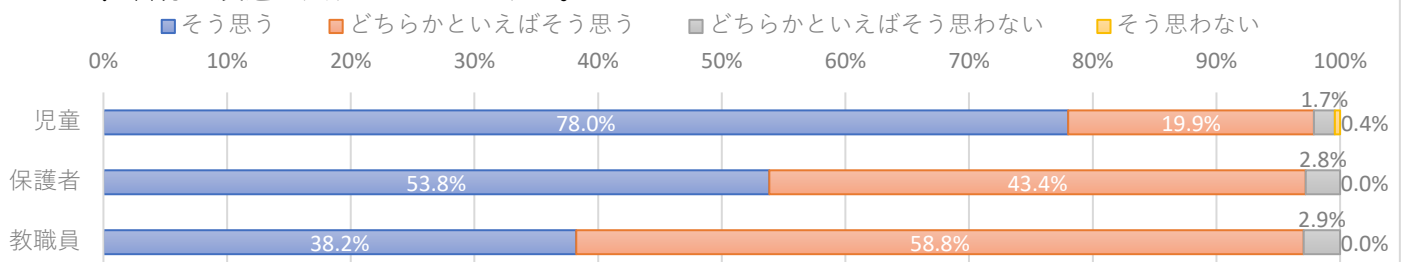
学校生活全般で、先生は相談にのってくれると思うという回答が児童、保護者ともに90%を超えている。担任が児童の困り感を察知し、全教職員へ共通理解を図ってきた。児童の様子を見て声をかけたり、GIGA端末でやりとりをしたりして、個に応じた支援に生かせるように努めている。肯定的な意見が多い一方、肯定的ではない回答が5%前後であることを見逃さずに、今までの取組を継続するとともに、何か気になることや気付いたことがあったら、すぐに相談できる環境づくりにさらに努めていきたい。

5. 学校生活は楽しいですか。



児童も保護者の方からも高い数値で児童は楽しく学校生活を送っていると思うと回答をいただいた。各学級、学年の取組や支援体制が児童に合っていたと思われる。一方、1割程度の児童が否定的な回答をしていることから、すべての児童が楽しく学校生活を送れるよう「共生*共育プログラム」の実践や日々の学校生活の中で「楽しい」と思える経験を重ねていけるように支援を続けていきたい。日々の学校生活の中で困り感をもつ場面がでてくることも考えられるため、アンケートや効果測定の実施後に個別に聞き取りを行うなど、支援教育コーディネーターを中心とした体制をつくり、より多くの教職員で様子を見守りながら支援をしていきたい。

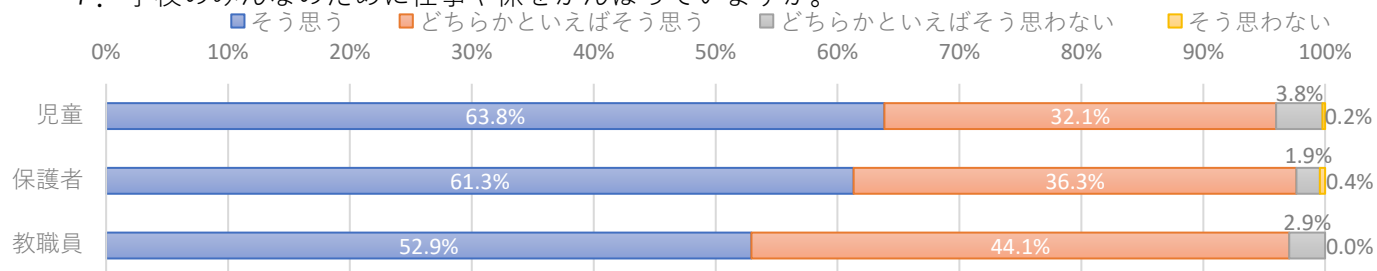
6. 自分や友達を大切にしていますか。



なかよし班や各委員会が企画したイベントなど、異年齢集団での交流を積極的に行ってきた。児童同士がお互いを大切にすることがあがる場面が多くあった。アンケートの結果からも約98%の児童が自分や友達を大切にしていると回答した。日々児童の変化を敏感に感じ取り、より丁寧にかかわるよう心がけてきたことが、アンケート結果に表れている。なかには学校生活のなかでの友達とのトラブル、日々の言動から、自己肯定感をより一層高めていく必要があると感じられた場面も見られる。成功体験を積み、自己肯定感を高めていけるように今後も支援を充実させていきたい。

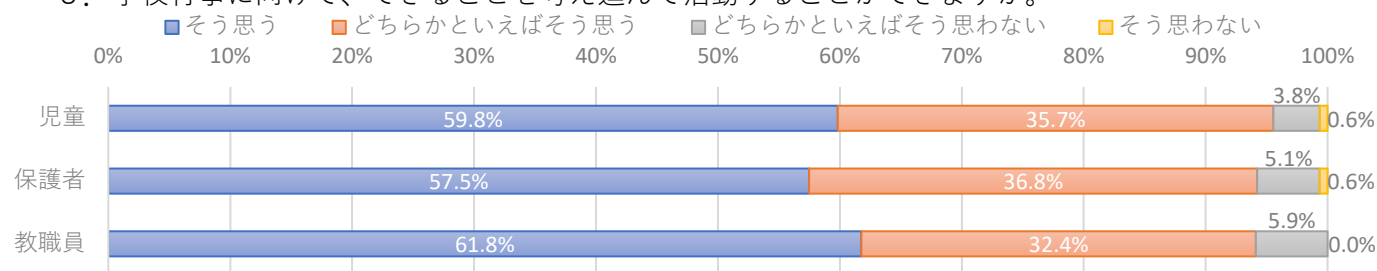
3の柱「主体性を育む」

7. 学校のみみんなのために仕事や係をがんばっていますか。



約96%以上の児童が、係や当番活動、委員会活動に進んで取り組んでいる。皆の為に活動できたという充実感を味わえたことが伝わってくる。係活動では、上級生になるに連れて様々な意見が出たり積極的に活動したりするなど、毎年各クラスで工夫して活動している経験を生かすことができている。代表委員会では、全校児童がmeetで話し合いの様子を視聴し、教室からも話し合いに参加している。そうすることによって、低学年から高学年の一人一人が議題に対して、自分事として捉え考えることができ、主体的な活動へとつながっている。今後も、全校で住吉小学校をよりよくする活動を考え、実施していきたい。

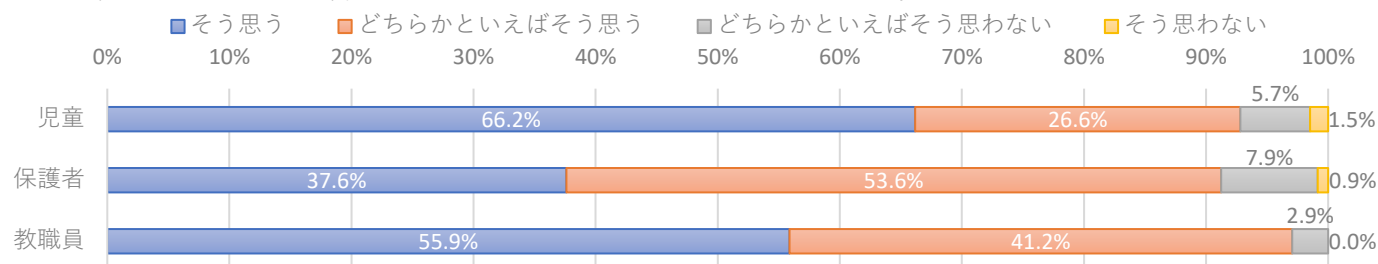
8. 学校行事に向けて、できることを考え進んで活動することができますか。



約96%の児童が学校行事に主体的に関わっている。運動会ではスローガンをもとに、全校児童が一丸となって取り組むことができた。また、応援合戦や団体競技などプログラムの幅も広がり、より一層「運動会を盛り上げたい」「楽しみたい」という気持ちをもって臨むことができた。月に一度のなかよし班活動では、ペア学年が互いにルールや遊び方を工夫しながら異学年交流を実施している。委員会活動では、環境委員会が鯉のえさやり体験、スポーツ委員会がシュートゲームなど工夫を凝らした活動を行っている。今後も、児童の思いを大切にしながら、学校行事等の教育活動の充実に向け、取り組んでいきたい。

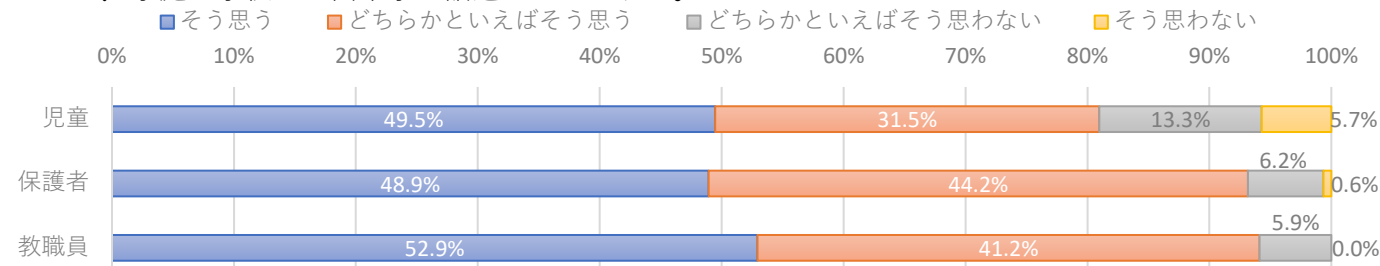
4の柱「安全安心・地域とともに歩む学校」

9. 学校での地域学習や地域の方々とのふれあいは楽しいですか。



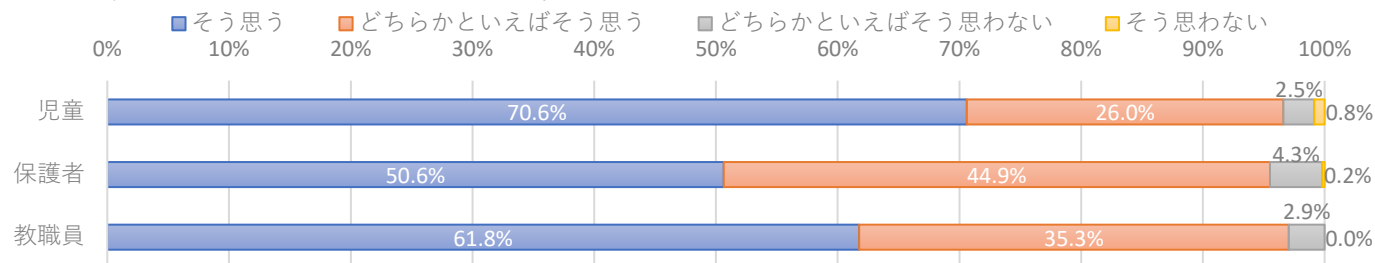
今年度は俳句教室や茶道、出前ごみスクールなど、外部講師を学校に招いての授業だけでなく、1年生と園児の交流、3年生のプレーメン商店街を盛り上げる為の活動、4年生の特別養護老人ホーム訪問など地域と関わる学習活動に取り組んだ。児童会活動では、敬老の日に地域の方々へ手作りのプレゼントを代表児童が朝会で直接渡すことができた。社会に開かれた学校づくりを目指し、「人」と触れ合う活動が子供たちの学習意欲や想いを高めることに繋がっていると考えられる。今後も地域との関わりがある学習活動を取り入れていきたい。

10. 家庭で学校での出来事は話題になりますか。



コロナ禍以前のような行事や授業参観ができるようになったことで、より保護者の方に学校の様子を伝えられたことが、アンケート結果にも反映されたと感じている。一方で、『家庭で学校のことを話題にしているか』という質問に対して「思わない」と回答した児童もいるため、学校・学年便りやホームページを通じて広報したり、保護者の方の協力を得ながらの学習活動を行ったりして、「お家の人と学校の話をした。楽しい思いを共有できた。」と子供たちが実感できるようにしていきたい。

11. 安全を守って生活していますか。



今年度は、以前のような避難訓練や全校引き取り訓練、1・3年生の交通安全指導を実施することができた。総合防災訓練では消火器使用体験や起震車体験など、実際の災害を想定した体験活動が、児童の安全意識を高めていると考える。また、PTA活動としての安全マップ作成も意識付けの一つになっている。

夏休み明けすぐに行っている児童引き取り訓練については、来年度は実施時期を早め、学校全体でより危機管理意識を高めていけるようにするとともに、継続的な安全学習の機会を設定していく。